

第九十七回フォト句優秀作品（元年7月9日）







チヨット見で

イケメンに倚る

花二輪 (正二)



緑陰の野鳥の声に

揺れにけり (浩平)

寸 評：

1) 船宿に灯る明かりや柳橋 長尾 進一郎

近景に柳の葉をあしらった隅田川畔の暮色。風情のある写真だ。

船宿の表札の一灯だけが明るいのが心憎い。原句は「船宿に明かり灯りて宴を待つ」だが、下5を地名にして印象を強めた。

2) 法螺の音に吼える狛犬夏の霧 池田 隆

出羽の羽黒山の境内、霧の中のほら貝の響き。狛犬が呼応して天に向かって吠えるように感じたのであろう。原句はやや散文的なので、狛犬を主体に語句を並べ替えた。原句：「法螺の音に狛犬吼える霧の中」。

3) ちょっと見てイケメンに倚る花二輪 矢澤 正二

瓢箪の形の良いほうにだけ花が倚っている面白い場面。よくもまあこんな場面を捉えて画像にしたとフォト句精神の発露を感じる。

原句は「チョット見で形（なり）が良いのに華は寄る」

4) 緑陰の野鳥の声に揺れにけり 大越 浩平

絞りを開放にして背景をぼかした撮影テクニック。作者は夏の軒飾りに涼を感じたのだ。原句は「緑陰や野鳥の声に眠りたり」だが、一句の中に切れ字が複数あると強調点が分散するのでこれを避け、句の主体を作者から軒飾りに変更してみた。





## 付け句

付け句：今月は矢澤さんの出題。道祖神の森の小道にガウンの女性が立っている不思議な感じの画像だ。

1) **別れる**と突然言われ夏木立

中村 晃也

こんな場所で突然言い渡された女性の心情。蝉の音がうるさい。

2) 道祖神**マントの魔女**と対決す

松田 昌康

画面奥の道祖神と正対するのは魔女だった？

3) この先を往くか帰るか**分かれ道**

下山 健夫

こんな所に出てしまったが、これからどうしようか？人生の縮図を垣間見たようなシーンだ。

以 上